掘師会 2022 年初夏会報

（日本における地下掘削の技術向上並びに継承するために設立された会）

一般社団法人掘師会
東京都練馬区大泉学園町
理事長 内山 剛

1．理事長挨拶

2020 年コロナ禍、志を持った皆様と一般社団法人掘師会を立ち上げることができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

オンライン意見交換会では多くの御提言をいただき感謝しております。

引き続き皆様とともに、ボーリング技術のスキルアップを図っていきます。

今後とも宜しくお願い申し上げます。　内山 剛

2．会議報告

開催	2022 年 2～5 月	場所	オンライン	参加者	会員及び地質調査事業者様
概要	・顧客要望に応え続けるため、ボーリング技術のスキルアップが欠かせない。 ・顧客の期待を超えるためには、ボーリング技術に加え、知識補充も重要だ。				

3．本年の活動

（1）方針

コロナ禍、活動が制限されている状態のため、当面は、オンライン会議による情報交換を行っていく。

活動制限が解除された段階で、掘師会として勉強会を実施していきたい。(2022 年 1 月より変更なし)

（2）掘師会ステッカー配布

2022 年 5 月、掘師会ステッカー（ヘルメット等に貼付用）を制作し、配布を開始。

研鑽を積んでいる弊会会員向けに掘師会マグネットと掘師会ステッカーの 2 種類を用意している。

4．スキルアップ勉強会

密を避けるため、ウチヤマ地質工業内で少人数による勉強会を開催した。

勉強会は、参加者が事前に課題について調べ当日に議論を交わし、経験をノウハウへと変えている。

今後、これらの勉強会も掘師会の皆様と取り組んでいきたいと考えています（内山理事長)。

＜2022 年ウチヤマ地質工業内の主な勉強会＞

2022 年	勉強会の内容
2 ～ 4 月	技術勉強会（毎週）
5 ～ 6 月	技術験勉強会（毎週） 技術勉強会合宿（合計 3 回を予定、現在 2 回実施済）

5．トピックス

インフラ点検の高度化、そして地中調査事業の高度化

ここでは、「アナログ規制」の撤廃、インフラ点検業務の高度化から、地質調査への影響を考える。

1．「アナログ規制」の撤廃に向けて

2022 年 6 月 3 日付日本経済新聞によると、政府は対面や常駐といったデジタル社会に適合しない「アナログ規制」が義務付けられた法令約 4,000 条項を改正し、ダムや堤防といったインフラ点検分野で目視検査規定を撤廃するよう方向づけられた。インフラ点検業務の効率化が成功すれば、多くの分野で効率化に向けた動きが加速するのではないだろうか。

2．インフラ点検業務の高度化の段階

インフラ点検業務の高度化は 2 段階に分かれる。第 1 段階は、現場に行かず離れた場所から情報収集を行い、人が確認する。例えば、遠方からドローンで撮影した画像を人が確認するものである。第 2 段階は、AI（人工知能）が撮影したデータを解析し、確認作業を省力化していく。インフラ点検業務の高度化イメージは次表の通りである。

＜表：インフラ点検業務の高度化の段階イメージ＞

段階	情報収集	リスク評価
①	遠隔（ドローン等）	人による分析・評価
②	遠隔（ドローン等）※2	AI の画像認識・診断やビッグデータ分析等の技術支援・精緻化

※2:第一段階と同じ内容であが、技術進歩により第一段階と異なる手法がとられることも想定される。(筆者)

出所：2022 年 6 月 3 日国土交通省第 4 回デジタル臨時行政調査会資料 1 P3 を参考に筆者作成。

注：参考資料では、現状が Phase1、表中の第一段階が Phase2 で、同第 2 段階が Phase3 としているが、説明の簡素化のために段階表現を変更した。

3．ボーリング事業における高度化

掘師会 2022 年初春会報で報告の通り国土交通省の事業において「現場に行かず Web カメラでボーリング掘削深さの確認する」ことはスタートしているが、これを前記『2．インフラ点検業務の高度化の段階』で述べた高度化の段階にあてはめると、第一段階に該当する。インフラ点検業務の高度化の段階と同じく、ボーリング事業においても第二段階は「AI（人口知能）が撮影したデータを解析する」段階になる可能性がある。整理すると、ボーリング事業の高度化は、第 1 段階が遠く離れた場所からリアルタイムでボーリング状況を伝えること、第 2 段階は AI（人工知能）等の画像解析による効率化が期待される。地質調査に携わる事業者にとって、将来を見据えた技術開発の重要性が大きくなっている。

執筆：2022 年 6 月 6 日 小島康（中小企業診断士）

編集：掘師会事務局（合同会社ココジマ）